

国土交通大臣賞

国際新都心の形成を目指す「虎ノ門ヒルズエリア」開発の主導的役割

森ビル株式会社

〔授賞理由〕

本事業は、長年着工できなかつた都市計画道路のために機能更新が遅れていた地域において、国の法や制度（第2種市街地再開発事業、特定建築者制度、立体道路制度）、東京都の制度（公募による事業協力者制度）を有効活用し、東京都施行ながらも民間企業の主体的な活動によって、都市計画道路（環状第2号線、事業距離1.35km）の実現を図った。併せて開発の過程で生じた住民たちの自主的な組織を新虎通りエリアマネジメント協議会として醸成し、その連携・協同団体として一般社団法人新虎通りエリアマネジメントを組織して地域の機能更新のサポートを継続して行っている。

虎ノ門ヒルズ森タワーを複合施設（172戸の住宅、オフィス、ホテル、カンファレンス、商業）として開発と運用を行い、道路整備に端を発した地域活動や機能更新による建替えを促進し、新虎通り道路上でも占有許可による道路内店舗を設置して社会実験を試みており、新規性、先進性、独自性が高く評価できる。

なお、現在開発が進行中の（仮称）虎ノ門ヒルズビジネスタワー（2019年12月竣工予定）にはバスターミナルを併設し、羽田空港からの都心部の玄関口と位置付け、（仮称）虎ノ門ヒルズレジデンシャルタワー（2021年1月竣工予定）は地下鉄の新駅（東京メトロ日比谷線（仮称）虎ノ門新駅）からも至近な550戸の住宅を配置する計画となっている。また（仮称）虎ノ門ヒルズステーションタワー（2022年竣工予定）では、オフィス、商業、ホテルのさらなる充実を目指した再開発を行うことが予定されている。これら3棟を虎ノ門ヒルズ森タワーとデッキで連結することで、新たな人の流れと緑の空間を生み出し、この一帯が「虎ノ門ヒルズエリア」として完成する見込みとなっており、このエリアの将来性も大いに期待できる。

以上より、本事業は、当学会の業績賞に相応しいと認められる。